

## 外来担当医表

土曜日は休診です

※2015年4月1日現在の内容です。

※担当医は予告なく変更になることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	中島	笠原	村上	藤永	田仲
			城野		
午後 予約			城野	非常勤	

### 病院理念

私たち向陽台病院は、地域医療のなかで安全で効果的な精神科医療を提供するために、職員の知恵を結集し、迅速かつ包容力のある対応ができる病院を目指します。

### 患者の権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。



### 医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本市北区植木町鏡田1025  
TEL: 096-272-7211 FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>



当日の診察順番をコチラから受付できます

再来専用受付システム



当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2015年4月に3rdG:ver1.0で再認定されます。



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとはあと評価（認定3/Stage-1）の第三者評価認定を受けています。

● 日本精神神経学会専門医研修指定病院

● 日本精神科病院協会認定専門医研修病院

# こもれび



今号の表紙：患者さんが作った陶芸作品に革で作った花を添えてみました

病気のおはなし  
**児童虐待**

病棟紹介

**児童思春期ユニット**

「学習支援の現状と今後の展開」

プログラム紹介

**摂食障害ミーティング「肥後椿会」**

こもれびエッセイ

第18回・疋田 忠寛

そよ風家族会 通信

こもれびぐらぎ

- ・ 病院機能評価受審
- ・ メンタルクリニック保田達

思春期ショートケア

KOMOREBI  
2015.Spring  
vol.45

執筆者：診療部 医師 村上 真紀

# 児童虐待

全国の児童養護施設で暮らす2万9979人(2013年2月時点)のうち、親などから虐待を受けた経験がある子どもが59.5%に上ることが、厚生労働省の調査で分かりました(2015年1月17日・熊本日日新聞より)。5年に1回実施されている調査で、2008年の前回調査よりも6.1ポイント上昇し、児童相談所による虐待対応件数の急増など問題が深刻化する中、安全確保のため親から引き離され、養護施設で暮らす子どもへのきめ細かいケアが求められています。

虐待の種類別では、食事を与えないなどのネグレクト(育児放棄)が63.7%を占め、身体的虐待42.0%、暴言や無視などの心理的虐待が21.0%、性的虐待が4.1%でした。また、知的障害や発達障害、身体的な障害がある子どもは28.5%にのぼりました。虐待で心の傷を負った子どもも含め、専門的なケアの体制整備が急務であり、当院でも現在積

児童虐待の通告はすべての国民に課せられた義務です。「もしかして虐待かも…」と感じたら、児童相談所または福祉事務所へ連絡してください。

極的に取り組んでいます。

虐待を受けている子ども(被虐待児)は、発達障害によく似た症状を示すことがあり、中には注意欠如多動性障害や広汎性発達障害と診断名がついているケースもあります。しかし、脳の発達上の問題である発達障害と、環境的な問題である虐待は、本来別のものであり、子ども虐待は、次のようなさまざまな要因が重なって起こります。

## ① 養育者の状況

育児不安、養育者の性格的傾向、感情・情緒不安定、精神疾患

## ② 子どもの状況

低出生体重児、子どもの疾患・障害、発達の遅れ

## ③ 養育環境

転居、孤立、長期分離あり、経済不安 など

実は、虐待と発達障害は密接な関係があります。子どもに障害があると、育てにくさから虐待関係となる場合があります。また、近年の研究では、虐待を受けた子どもの脳が回復不可能なダメージを受ける場合もあることがわかってきました。虐待が原因で、障害が残ることがあるのです。多数の被虐待児を観察した結果、多動、衝動性のコントロールが困難であったり、予測を立てたり整理をしたりすることがとても苦手だったり、前述のように、発達障害と非常に似似た症状が見られることがわかりました。このため、虐待の影響は、「第4の発達障害」と呼ばれることもあります。

虐待は世代を超えて連鎖しやすと言われています。虐待を行っている親の生育歴を見ると、親自身も虐待を受けて育ってきた例が少なくありません。子どもの適切な育て方がわからないための、虐待関係とも考えられます。親も支援が

必要なのです。

児童虐待の通告はすべての国民に課せられた義務です。虐待の可能性を感じたり事実を見たりしたら、児童相談所または福祉事務所へ連絡し、まずは子どもを守らなくてはなりません。

専門機関の役割としては、子どもへのケアはもちろんのこと、親を孤立させない配慮、親への支援を考へることも、児童虐待防止につながる大事な取り組みだと考えます。



# 児童思春期ユニット 「学習支援の現状と今後の展開」



執筆者 医療コーディネート部 臨床心理士 濱本 晋也

南棟の3階に、19歳以下の患者さんが入院できるユニットが27床あります。高校生ももちろんいますが、多くは中学生と小学生で平均すると14歳ほどです。入院期間は病状や退院後の生活環境の調整などによって違いがあるものの、数ヶ月に及ぶ子どもたちがおおり、この間の義務教育をどうやって支えるかは、とても大切なことだと考えています。

これまでは、学習支援という形で臨床心理士や作業療法士、看護師などが子どもたちの横について学校で出されたプリントや課題などに取り組んできました。教員の資格を持つ先生にも加わってもらい、雰囲気は「自習室」といった感じです。各スタッフが専門的な視点から工夫したり方々その子に合った取り組みなどもしてきて、1つの成熟した形ではありました。しかし、まだまだ義務教育の担保という意味では弱く、2015年1月から院内学級を模した「授業形式」に改革しました。学校のように机を並べ、先生が前に立ち、号令がかつてスタートします。国語、数学、英語などの「今日の時間割」もあります。また、心理学や障害児教育などを学ぶ大学院生にも参加してもらい、サポート体制

もグンと充実させました。

手始めに月曜日の午後授業形式にしたところ、さっそく手ごたえがあったので、水曜日、金曜日にも拡大させ、できれば週に4回、5回へと増やしていきたいと思っています。4月には、教員の数を増やして二層の拡充を図るという計画もあります。

医療が病気の治療や障害の受容に力を入れるのは当然ですが、入院によって学習が疎かになってしまふのは避けたいところです。過去に入院をした子どもたちの保護者に行ったアンケートにも「入院期間中の勉強」を気にする声は多々ありました。出来る限りバックアップしていきたいと思っています。



column

## 授業形式にしています

● 医療コーディネート部 臨床心理士 二宮 宗三

新しい学習支援に変わって1カ月が経とうとしています。以前のように各々が自分のペースでやっていくスタイルから、先生が前に立ち、日直が「起立、礼」と言って始まる、あのお馴染みのスタイルになりました。英語の授業では、再度「スタンド アップ プリーズ！」と子どもたちが言い、スタツプも一緒に「ハロー、ナイス トウミーチュウ。マイネーム イズ ○○○」と自己紹介が始まります。最近では、自己紹介は「an ○○○(in)ですかね。こんなことを言っていることが日本人らしいのですが」と始まるようなので、アメリカ人が聞いたら「何を言っているんだいニフ。アハハハ」と笑われるかもしれませんが、楽しみながらやっています。変化する時にはスタツプも気持ちを追いつかないことがあります。僕らも新しい気持ちで子どもたちと一緒にやっていこうと思います。

## 摂食障害ミーティング

### 「肥後椿会」

この会は20年以上前、熊本大学で家族療法の視点に立って患者さんと家族を支援するために始まり、平成9年からは本院で行うようになりました。会が始まったころは、摂食障害はあまり知られておらず、また「思春期やせ症」と呼ばれ、思春期の少女の成熟への抵抗から起こると考えられていた面がありました。



少女たちは、「やせたいわけじゃない」と病気を否認するので、小児科や内科などを転々としたあげく、精神科やカウンセリングに紹介されていきました。徹底して食べない、あるいは食べ始めるととんでもない量を食べて苦しんだり、隠れて吐いていたり、これまでと全く違ってしまった子どもに接し、「なぜこんなになつたのか」と戸惑い、対応に苦慮し、自分を責め、あるいは子どもを責めて家族中が混乱する状況が多く見受けられました。そのような患者さんとご家族の不安をみんな語り、支え合い、学ぶために会は続けられてきました。

さて、最近では摂食障害もずいぶん市民権を得て、ネットなどで患者さん同士が励ましあう傾向も強まっています。ただ、子どもの成熟前傾現象が進み、子どものおしゃべりは前倒しになり、また、アンチエイジングでいつまでも若く美しく

いたい大人の自己愛を刺激する情報が溢れる時代になりました。患者さんは、低年齢化と同時に高年齢化（産科での体重指導に生真面目に対応し、その反動で過食になる方も出てきた）し、あるいは、一時は治っていたのにストレスから再発するなど、思春期だけの病ではなくなってきました。食行動だけでなく、肥満恐怖からの嘔吐や下剤の乱用、社会からのひきこもり、大量の食物購入のための経済的な負担、食べ物の万引き、気持ちを紛らわすための飲酒や薬物・自傷などさまざまに派生し、さらに悪循環してしまいます。対人関係が苦手で、体重の値や体型に過度にこだわる、発達障害傾向の方も増えているようです。ですから、気力や根性や1回の入院治療で治さねばならないと考えるのではなく、自分の心や体の感じに気づきながら、徐々に不安や恐怖を緩めていく治療が望まれます。



その一助として、「肥後椿会」があります。本人、ご家族、その他関係者が集まり、病気についての理解を深め、治療に向き合う機会となるよう努めています。お悩みの方、どうぞお気軽にご参加ください。

#### ひごつばきかい 肥後椿会

- 毎月 第4土曜
- 14:00~15:30

参加をご希望される方、  
ご相談の方はお電話ください。

☎ 096-272-5250



# こもれびりレーイッセイ



● 第18回：臨床心理科 主任 足田 忠寛

## プロフェッショナルとは

先日テレビを見ていたら、「プロフェッショナル」という番組があった。知っている方も多いと思うが、一応ざっくり説明すると、その道のプロの方のお仕事を紹介して、最後にその人がプロフェッショナルとは何かを述べる番組である。昔、たまたま見ていた時に、何かの職人さんが言っていた言葉がとても印象に残っていたのを思い出した。その職人さんは言った。「プロフェッショナルとは『持続する情熱』です」と。その言葉を聞いて、震えた。何て格好良い響きだろう。自分も聞かれた時に、こんな格好良い言葉を言えたい。そこで今回は、自分にとってのプロフェッショナルを考えてみることにする。

自分の臨床家としての仕事に鑑みて、まず必要だと思うのは柔軟性だと思った。柔らかさ、いや、しなやかさでも言おうか。色々な考えを受けとめ、吸収できるくらいに柔軟さ、そしてどんな場面でも対応できるしなやかさ。まさに臨床家として必要なものである。ただ、柔軟性、しなやかさという言葉には格好良さがあまりない。もう少し何かひねりたい。

では他に必要なものは何だろう。信念だろうか。何事にも揺るがない信念を持っているのは大事だし、困ったときに自分を支えてくれるものでもある。そんな芯の強さはもちろん必要だ。でも、あまりの芯が強すぎてもいけない。時にそれは「エゴ」になり、自分勝手な臨床になってしまいがちである。信念、芯の強さ、必要ではあるが、言葉としては真つ直ぐすぎない。

やはりプロフェッショナルなのだから、1つの意味しかないものはいけない。いろいろな意味を含んでいて、それでいてシンプルな言葉を持っていないといけない。柔らかさと芯の強さ、相反するであろうこの2つを併せ持つ言葉があると良い。柔軟さがありつつ、実は芯もある。でもその芯はあまり表には出てこない。…そうだ、ぴったりの言葉があった。もし、自分がプロフェッショナルとは何かを尋ねられたら、こう答えよう。

「僕にとってのプロフェッショナルとは、『アルテンニ』です」

▼ 次回予告 総務課 阪本匡聰 課長 ハバトンタッチ



## そよ風家族会 通信

デイケアセンター 臨床心理士 杉本 千佳子

そよ風家族会は、6人の家族会の役員さんと私たち家族会委員が一緒に、年間計画を立て活動しています。当事者や家族が治療の主人公となり、自分の生き方を決定していくお手伝いができればという思いで、毎回楽しみに準備し開催しています。

今年も4回のそよ風家族会を開き、多くの方にご参加いただきました。5月は中島中央院長の「向陽台病院のこれから」、8月は大内清ダイケアセンター長の「薬との上手な付き合い方」地域でいきいきと暮らす為に、の講話、10月には「自立について考える」当事者の想い、家族の想い」と題した意見交換会、そして、2月は家族交流会を行いました。

特に「自立を考える意見交換会」には、40名を超える家族や当事者の参加があり、大変充実した時間を過ごすことができました。「自分の行動に責任をもたせてほしい。病気があるからと言つて何もできないわけではない」「病気になるって40年。やっと自分の病気の付き合い方がわかってきた。私の考える『自立』とはうまく自分をコントロールして、必要な時には病院や友だちを

頼りながら、自分で生きていくこと」という当事者の言葉は、とても重みがあり、心に強く残っています。ひとことで「自立」と言っても、おかれた状況や病状によつて、それぞれ違います。「仕事をすること」「一人で暮らすこと」「笑顔で過ごせること」「SOSが発信できること」「家族も自立しなくては」…。

何もかも自分で出来るようになることを目指すのではなく、必要なときには周りに助けを求めながら、自分と付き合い合っていくことが「自立」なのかなあと思いつきました。当事者や家族の言葉が、参加者にとって大きな希望になったようです。

当事者が回復するためには、家族もいきいきと暮らすことが重要なのだと改めて感じています。来年度も、家族が元気に過ごせるよう、そよ風家族会の活動をしていきたいと思います

次回の予定

● 平成27年5月23日(土) 10時〜12時

▼ 会場…リュミエール活動室

詳しくは

☎0966-2721-7211

までお問い合わせください。

## 病院機能評価受審を終えて

事務長 左座 道也

当院では、平成26年12月18日・19日、『日本医療機能評価機構の病院機能評価3rdG・Ver1.0』を受審しました。

受審に際して、準備委員会(役職者以上)を年度当初に発足し、各部において前回の見直しと今回の新しい項目の検討を行い、取り組んできました。今回が3回目の更新受審でしたが、これまではすべての病院を対象にした統合版で、該当しない項目もあり、実態と評価項目があわなかったり、対応しなければならぬ矛盾する点も多くありましたが、しかし、今回から病院の機能種別に応じたスタイルとなり、前回、中／小項目(137/352)に分かれていた評価項目も中項目(92)のみとなり、受審側にとつての負担も軽くなったと思います。

評価機構側も病院の特性や質改善の実績を取り入れた審査を行うなど、評価の重点化を図り、審査手順の効率化へと変わりました。ただ、項目はかなり集約されていますが、裏を返すとVer6.0でできていたことが前提で今回の新しい評価体制があると私は思いました。その中でも今回の新しい評価項目のポイントがケアプロセス中心の評価です。病棟における典型的な症例を通じ、外来／入院／退院への対応や組織体制、質改善への取り組みなどを総合的に評価します。

これまで受審を行った医療機関を訪問したり、情報を入手したりして院内でサーベイヤーからの質問などをコミュニケーションしたりして当日を迎えました。参加した医師、看護師、コメディカルは緊張感を持って対応したと思いますが、自信を持って受け答えができたと思っています。その他の項目においても各部の担当者を中心にしつかりと対応ができていると感じる場面が多くありました。

「普段着どおりに受審しよう」を合言葉に2日間、病院が1つになって取り組んだおかげで、2月に機能評価機構からの中間報告で補充審査もなく、4月上旬には認定証が届くとの連絡をいただきました。

これからも診療・看護、医療の質、組織を含めた病院全体さらなる向上に努力してまいります。

## メンタルクリニック保田窪

精神保健福祉士 春木 あゆ美



向陽台病院のサテライトクリニックとして、「メンタルクリニック保田窪」が開院して半年が経とうとしていきます。前号でも少し触れましたが、クリニックを受診される方の半分くらいは小・中・高校生の方です。受診理由は、学校生活になじめない、友だち関係で悩んでいるなど、さまざまな精神的な相談で来院されます。そういった10代前後の方を対象に、3月からショートケアを立ち上げることにしました。活動を通して自分自身の得意・不得意を理解し、安心した学校生活や社会生活が送れるようお手伝いします。利用は当クリニックに通院している方のみとなります。詳細は左記の通りです。

また、自宅へ引きこもり状態にあり、なかなかクリニックへ来ることができない方に関しては往診をすることもあります。往診とは、ご家族、本人の依頼に応じ、直接自宅に伺って診察をすることです。往診までの流れは、まず家族に来院していただき本人の状況についてお聞きした上で、日程・時間調整を行います。往診した結果、本人の受診ができた方もおられますし、訪問看護という形で関わりを継続している方もおられます。まずは、当クリニックへご相談ください。

### 【思春期ショートケア】

時間

- 毎週(水) 13:00~16:00
- 毎週(金) 9:30~12:30

場所

メンタルクリニック保田窪 2階 デイケア室

活動内容

創作や運動、たまにお勉強もします。

対象

10代前後の小中学生

### メンタルクリニック保田窪

〒862-0926 熊本市東区保田窪5丁目10-23

TEL.096-213-6945

診療時間・休診日	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	●	●	●	●	●	▲	—	▲
14:00~17:30	●	●	●	●	●	—	—	—
17:30~19:00	—	●	—	—	●	—	—	—

## 診療のごあんない

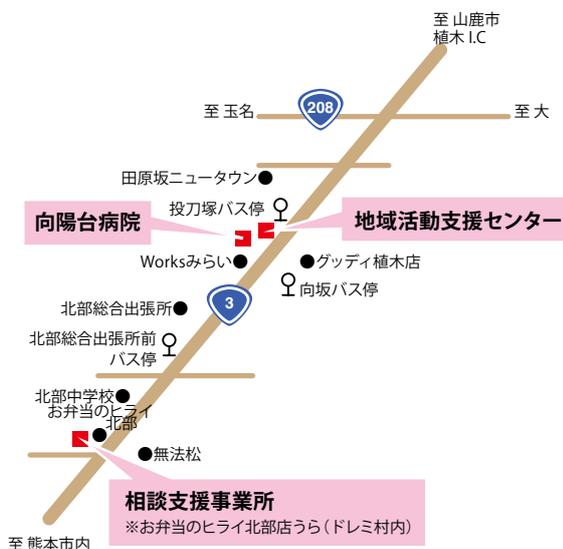
- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 病床数：198床
- 外来診療時間  
【月～金曜日】9時40分～16時  
(ただし、受付は12時30分まで)  
【土・日曜日】 休診

祝日も平常どおり診療しています

## 交通アクセス

- 産交バス 向坂バス停から徒歩3分  
 投刀塚バス停から徒歩3分
- 
- 車  植木ICから10分
- 
- JR  植木駅下車 → タクシーで6分

## アクセスマップ



## 初めて受診される方へ

当院は予約制です。  
 初めての方は、地域連携科へお電話ください。  
**☎ 096-272-5250**  
 電話受付時間  
 【月～金曜日】9時～16時30分  
 電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先 などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、**2時間程度**とお考えください。

## 動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

集計月	外来延数	新患者数	1か月ごとの入退院者数	
			入院	退院
2014年12月	2,669	69	36	29
2015年 1月	2,556	57	42	38
2015年 2月	2,515	64	41	39

(単位：人)

## 「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています!



私たちは「こもれび」とおして、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。(向陽台病院 広報委員会)

## 編集後記

編集後記を書いている今、2015年もすでに2カ月が過ぎました。冬の肌寒さが遠のいて、昼間の風はすいぶんと柔らかくなってきました。日暮れも目に見えて遅くなり、冬は過ぎて春に移り変わっているのだと感じます。

同時に、この時期になると、東北の大震災が胸痛む感覚で思い出されます。少しでもよき変化があるようにと願ってやみません。

(濱本 晋也)